



ペンネーム	匿名希望
【エピソードのタイトル】 “予告プロポーズ”	
【エピソードの内容】 下関海響マラソンには第1回大会から参加していて今回で4回目です。 高校の時には陸上競技部に所属していましたが、まさか自分がフルマラソンを走るとは思ってもいませんでした。自分が生まれ育った山口県でフルマラソンの大会が開催されたことが大きなきっかけでした。マラソンデビューをするならこの大会！と決め、参加しましたが、自分の記録に満足できず、次の年、また次の年と回数を重ね4年連続の出場となりました。 そんな下関海響マラソンの第2回大会を走り終えた後、僕は職場の同僚であったある女性とお付き合いをすることになりました。共にランニングを趣味としていて、一緒に走ることもしばしば。今年は彼女の方も5kmにエントリーすることになりました。去年は応援するだけで待つ時間が長すぎたと、エントリーを決意したようです。僕がゴールに着くころには、そこで待っていてくれることでしょう。 だからというわけではないですが、僕はこれを機にプロポーズをしようと思っています。プロポーズをするなら何か記憶に残る方法はないかと考えていたこと、結婚をするなら2年くらいは付き合ってからでないと、と自分の中で決めていたこともあって、名案だと思いました。しかし、彼女の方が年上です。しかも結婚するまでに2年くらいは付き合う、という自分の考えを伝えたことはなく、彼女も不安に思っているのではないかと考えたので、今年の5月末に“予告プロポーズ”をしました。 「11月の海響マラソンで3時間を切ってゴールし、プロポーズします。」 サプライズ的なドキドキ感はなくなってしまうかもしれませんが、ちゃんと目標タイムを切ってゴールできるのか！？というドキドキ感が生まれます。自分へのプレッシャーも生まれるわけですが…。 現在の自己ベストは第2回大会で記録した3時間10分台。市民ランナーの目標といわれるサブスリーを達成し、もう一つの目標も達成できるよう練習を積んでいる日々です。	